

# 医療 IT化システムに新風

## システムアップ 埼玉企業

企業、団体、商店などで主催する経営セミナー、講演会、イベントなどの情報を無料で掲載します。開催要項をメールかファクスで情報開発室まで送付ください。  
【Eメール】  
joukai@saitama-np.co.jp  
【ファクス】048・861・8594

### 機器連動技術で高い評価

●医師会と連携して医療情報化を改革

インターネットをはじめとして世の中がIT化時代を迎える中、日本医師会は一九九七年にIT化のための「オルカプロジェクト」を立ち上げ、改革に乗り出している。

そうした流れを敏感に察知したのが、ラジエンスウエアの中嶋吉男社長だ。九七年には熊谷市内に医療情報化研究会(当時)を発足させ、二〇〇〇年には旧花園町(現深谷市)に「ラジエンスウエア」を設立。〇四年一月には本庄市の早稲田大学キャンパス内・IOCC本庄早稲田に本社を移している。

中嶋社長は「医療ミス防止システムや電子カルテなどを会社が引き継いだ。〇三年には日本医師会の日医IT認定サポート事業所になり、会社躍進のベースになった。また、IOCC本庄早稲田に本社を移したのは産学連携の成果を期待したためで、医療現場に新風を吹き込むための技術の構築はもとより、会社のイメージアップにもつながっている」と話す。

### ラジエンスウエア(本庄)



医療従事者の負担を軽減する電子化対応の「メディカル・コミュニケーション・デスク」＝本庄市西富田のIOCC本庄早稲田内、ラジエンスウエア

「メディカル・コミュニケーション・デスク」(略称MCD)の共同開発も実現した。本庄駅前商業ビル「本庄BLALA」内には昨年一月からサポートセンターが開設されている。

中嶋社長は「サポートセンターでは日医総研やNTT東日本と連携して、万全のセキュリティで

医療機関とネットワークを構築している」と話す。MCDの本格的な運用はこれからだが、現在、関東一円の百十もの医療機関が同社の各種システムを導入。機器連動技術で高い評価を得ている。

中嶋社長は「サポートセンターは患者さん一人に対して一つのキャラクターを与えて、患者さんの個人情報や管理・紹介するシステム」と説明。早稲田大学、埼玉大学、県産業技術総合センターと共同開発したもので、間もなく販売して運用を始める。

IOCC本庄早稲田内にある本社を中心に同社は東京・神田、群馬県前橋市、本県の東松山市に営業所を置いている。

中嶋社長は「医療システムの進化はだれもが望んでいるところ。これからも医療関係者向けの便利なシステムを構築し、併せて、教育の充実を図っていきたい。これからも最高のサービスを目指していく」と意欲的だった。

### 沿革

- 2000年 深谷市(旧花園町)に会社設立
- 03年 日本医師会IT認定サポート事業所になる
- 04年 本庄市の早稲田大学リサーチパーク・IOCC本庄早稲田内に本社を移転。同大学大学院と中里研究室でセキュリティを共同開発
- 05年 NTT東日本と販売店契約。経済産業省から補助を得て医療過誤防止システムを開発
- 06年 本庄駅前の「本庄BLALA」にサポートセンターを開設
- NTT東日本と特約店契約
- 07年 東松山営業所を開設

### 医療現場にぬくもりを



中嶋吉男社長

### 社長のひと言

2000年の会社設立以来、「医療現場に安心とぬくもりを」の考えでIT技術を生かしたシステムの研究・開発を行っている。開発のポイントは医療従事者の負担を軽減させ、診療に専念できる仕組みをつくること。早稲田大学や多くの支援者とともに研究を重ねてきた結果、理想のシステムが提供できるまでになった。医療のIT化はまさにこれからが本番。社のモットーである「最高のサービス」をうたいながら、医療環境改善に役立つものを全社一丸とあって提案していきたい。